

2011 Interim Business Report

第10期中間ビジネスレポート

2010年4月1日 » 2010年9月30日



DRECOM®
with entertainment

株式会社ドリコム

<http://www.drecom.co.jp/>

社長インタビュー



代表取締役社長
内藤 裕紀

上期の業績について教えてください

2011年3月期の上期につきましては、注力事業と位置づけているソーシャルゲーム事業において、提供するタイトル数が増えたことから売上は順調に増加してまいりました。また、既存事業にあたる携帯電話向けコンテンツ事業につきましても、安定的な収益基盤として堅調に推移いたしました。利益に関しましては、事業環境の移り変わりが早いことから当初保守的に見込んでおりました費用が想定を下回り、計画値からは上振れする結果となりました。

市場の成長が速く、事業環境の変化が激しいソーシャルゲーム関連の市場ですが、この上期におきましてはゲームのリリース、関連する広告サービスの立ち上げが順調に進んできていると感じております。

事業の状況について教えてください

インターネットサービスの世界ではSNS上のつながり（＝ソーシャルグラフ）を活かしたコンテンツが急速に広がっております。顕在化している市場としてはソーシャルゲームがあり、次にソーシャルと広告を掛け合わせたサービス（＝ソーシャルアド）が重要になってくるであろうと当社では考えております。

ソーシャルゲームに関しましては、自社制作のタイトルに加えて、世界最大のSNSであるFacebookでトップクラスのユーザー数を抱えるソーシャルゲーム会社CrowdStarとの協業、中国で最大のSNSであるRenRenでNo.1のユーザー数を持つソーシャルゲーム会社FiveMinutesとの協業を通じて、世界的なヒットゲームの国内に向けた提供も行い、ユーザーの獲得を進めております。

また、このソーシャルゲームの提供と併せてソーシャルアドについても実験を進めてまいりました。世界的に見渡してもまだ取り組みが進んでいないこの分野で、高い広告効果を得られるサービスへと着実に歩みを進めております。

当社の安定的な収益基盤となっている携帯電話向けコンテンツ事業の状況としましては、着メロ系サービスの成長が徐々に鈍くなっている状況です。一方で、市場環境としてはスマートフォンが急速に普及しておりますので、そちらに対応したコンテンツを提供すべく事業全体として準備を進めてまいります。

子会社の譲渡を発表しましたがその意図は

当社では、成長戦略としてソーシャルゲーム、モバイルコンテンツ、アドソリューションの3領域に注力すべく事業の選択と集中を行ってまいりました。こうした中、子会社2社に対して事業の譲り受けの申し入れを受け、その検討を行ってまいりました。

足下の状況として、注力しているソーシャルゲーム事業が成長していることから譲渡の影響を吸収できるであろうことと、ソーシャルゲーム市場の競争が激しくなってくるタイミングであることから、ここで経営資源を前述の3領域に一段と集中することが、当社の競争力の強化に繋がるものと判断し、譲渡を決定いたしました。

なお、当社では個人向けサービスを提供するエンタメウェブ事業と、法人向けサービスを提供するマーケティングソリューション事業の2領域にて事業展開を進めております。

譲渡事業はいずれもマーケティングソリューション事業ですので、今後は売上のより多くの部分が個人向けサービスを提供するエンタメウェブ事業が占めることとなります。ビジネスモデルはユーザー課金が主となりますので、より多くのユーザーに使ってもらえるサービスを提供し、より高い付加価値を提供して一人当たりの利用料金を高めることが事業拡大の指標となってまいります。

今後の事業展開についてお聞かせ下さい

ソーシャルゲーム事業では、すでに多くのユーザーにご利用いただいているゲームタイトルを保有し、海外トッププレイヤーと協業している点が競争優位性として挙げられます。この環境を踏まえ、より多くのゲームタイトル提供できるよう開発体制を整え、積極的に取り組んでまいります。関連市場としてソーシャルアドについてもニーズが高まっており、この上期に効果が出始めました当社サービスのさらなる商品力強化に取り組んでまいります。

また、新たな市場環境の変化としてスマートフォンの浸透が挙げられます。デバイスの変化はサービスの変化となり、新たなビジネス機会となりますので、この先の数年を見据えた取り組みとして既存コンテンツのスマートフォン対応、スマートフォン時代に適したコンテンツ開発など、投資を進めてまいります。

今後も、「インターネットサービスのものづくり企業」として、全社一丸となり、事業の拡大と新規事業の立ち上げ、収益化に邁進してまいりますので、株主の皆さまにおかれましても、何卒、一層のご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



2011年3月期の取り組み

事業の状況

インターネットにおけるコミュニケーションサービスを強みとして、下記の領域で事業を展開してまいります。

エンタメウェブ事業

コミュニケーションを楽しむことを目的としたエンターテインメントサービスを個人向けに提供します。

ミュージックコンテンツ事業

投稿型メロディサイトや着うたコンテンツなど音楽に関わる携帯公式サイト企画・運営



グラフィックコンテンツ事業

きせかえコンテンツやメールコンテンツなどイラストやイメージに関わる携帯公式サイト企画・運営



ソーシャルゲーム事業

SNS上で遊べるソーシャルゲームの提供



マーケティングソリューション事業

ユーザーのニーズに即したマーケティング効果の高いインターネットソリューションを法人向けに提供します。

アドソリューション事業

ソーシャルゲーム向けポイント広告サービスなど独自の広告サービスの提供



ウェブマーケティング事業

CMSサービスや社内向けブログのASP提供



ソーシャルゲームとは……

mixiやGREE、モバゲータウンなどのSNS上で遊べるゲームのことです。友達と競い合ったり、協力するという要素を重視した内容となっており、国内では2009年後半より急速に市場が立ち上がり、拡大しています。

提供中の主なソーシャルゲーム

海外のトップソーシャルゲーム会社と協業を進めるなど、積極的に展開してまいります。

Mobile Social Games



「ゲームスタジオ物語」

2010年2月～

PF: Moba-ge, mixi, GREE



「マイミク村」

2010年6月～

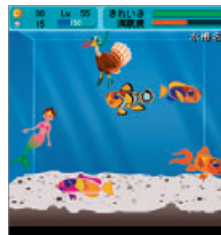
PF: mixi



「オンスタ!」

2010年7月～

PF: Moba-ge



「ハッピーアクアリウム
for Mobile」

2010年4月～

PF: mixi, GREE

PC Social Games



「ハッピーアクアリウム」

2009年12月～

PF: mixi,
Yahoo! モバゲー



「ハッピーアイランド」

2010年7月～

PF: HanGame, mixi,
Yahoo! モバゲー



「ハッピーサファリ」

2010年10月～

PF: HanGame, mixi,
Yahoo! モバゲー

with 



「ハッピーファーム」

2010年10月～

PF: Yahoo! モバゲー



「リトルウォーズ」

2010年10月～

PF: Yahoo! モバゲー

with 

営業の概況

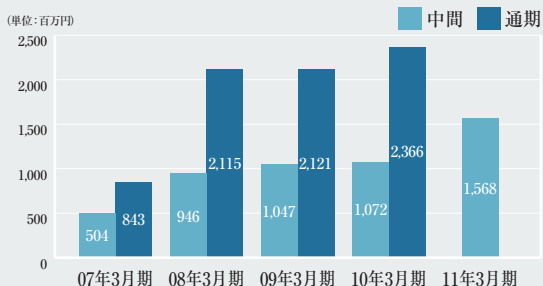
概況

IT業界におきましては、2007年から顕著となったFacebook上でのソーシャルアプリケーションの爆発的な成長を受け、mixi、GREE、モバゲータウンなど国内のソーシャルネットワークサービス上でも外部デベロッパーがアプリケーションを提供できる環境が整ってまいりました。こうしたソーシャルアプリケーション市場の立ち上がりの中で、当社グループは、既存の携帯端末向けコンテンツを提供するキャリア公式サイト運営に加えて、PCおよび携帯端末向けにソーシャルゲームの提供および、ソーシャルゲームと連携した広告サービスの提供に注力してまいりました。当第2四半期連結累計期間の業績といたしましては、売上高1,568,688千円（前年同期比46.3%増加）、営業利益80,848千円（前年同期比2.4%減少）、経常利益79,408千円（前年同期比0.7%減少）、四半期純利益13,536千円（前年同期比693.0%増加）となりました。

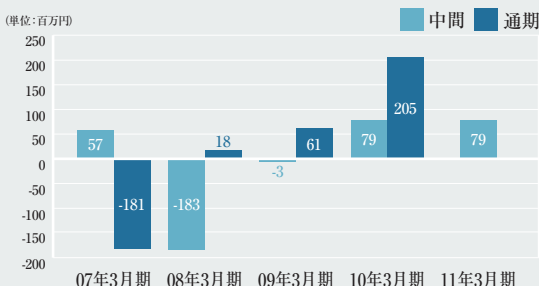
エンタメウェブ事業

エンタメウェブでは、携帯電話きせかえ事業を中心とした携帯コンテンツ事業および、ソーシャルゲームサービス事業におきまして、売上について当初計画のとおり推移いたしました。費用面では、保守的に計画していた人件費が当初想定よりも低く抑えられた一方で、携帯コンテンツ事業における広告宣伝費の増加に加え、ソーシャルゲームサービス事業における運用費が増加いたしました。以上の結果、エンタメウェブにおける当第2四半期連結累計期間の売上高は1,004,634千円（前年同期比70.2%増加）、セグメント利益は63,454千円（前年同期比18.4%減少）となりました。

売上高



経常利益



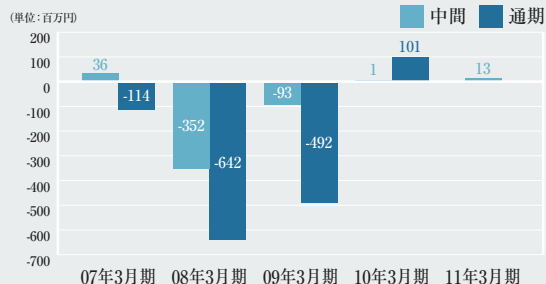
マーケティングソリューション事業

マーケティングソリューションでは、法人向けにソリューションの提供を行っておりますが、依然として法人の投資抑制が続いており、事業としましては低調に推移いたしました。マーケティングソリューションにおける当第2四半期連結累計期間の売上高は564,054千円（前年同期比17.1%増加）、セグメント利益は17,394千円（前年同期比248.3%増加）となりました。

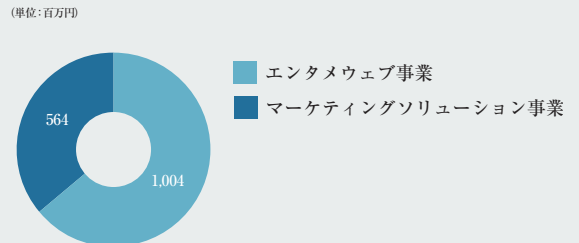
次期の見通し

第3四半期以降におきましても景気後退の影響や、最悪期を脱したものの依然として雇用情勢が不透明であることから、これに伴う変動要因を見込むことが困難であるため2010年10月22日に公表いたしました連結業績予想から修正をいたします。なお、第3四半期以降の業績につきましては、予想の開示が可能となった時点で速やかに開示させていただきます。

純利益



セグメント別売上高



中間連結財務諸表 (要旨)

中間連結貸借対照表

科 目	(単位：千円)		科 目	(単位：千円)	
	第10期中間 2010年9月30日現在	第9期 2010年3月31日現在		第10期中間 2010年9月30日現在	第9期 2010年3月31日現在
(資産の部)			(負債の部)		
流動資産			流動負債		
現金及び預金	489,162	624,831		539,200	599,059
受取手形及び売掛金	559,178	536,542	固定負債	15,809	61,400
商品及び製品	2,657	1,090	負債合計	555,009	660,459
仕掛品	3,753	1,664	(純資産の部)		
貯蔵品	963	732	株主資本	1,430,864	1,411,936
繰延税金資産	6,367	15,926	資本金	1,045,198	1,042,502
前払費用	27,638	35,979	資本剰余金	1,286,178	1,283,482
その他	4,263	11,005	利益剰余金	△900,513	△914,049
貸倒引当金	△15,601	△23,770	新株予約権	19,321	12,006
流動資産合計	1,078,383	1,204,001	少数株主持分	67,341	135,093
固定資産			純資産合計	1,517,527	1,559,036
有形固定資産	51,419	53,931	負債純資産合計	2,072,536	2,219,496
無形固定資産	863,260	869,359			
投資その他の資産	79,472	92,203			
固定資産合計	994,152	1,015,495			
資産合計	2,072,536	2,219,496			

中間連結損益計算書

(単位：千円)

第10期中間
2010年4月1日～2010年9月30日

科目	
売上高	1,568,688
売上原価	610,566
売上総利益	958,122
販売費及び一般管理費	877,274
営業利益	80,848
営業外収益	981
営業外費用	2,421
経常利益	79,408
特別利益	20,472
特別損失	59,455
税金等調整前四半期純利益	40,424
法人税、住民税及び事業税	8,164
法人税等調整額	8,815
法人税等合計	16,979
少数株主利益	9,908
四半期純利益	13,536

連結財政状態に関する定性情報

当第2四半期末の総資産は2,072,536千円となり、前連結会計年度末に比べ146,960千円減少しました。その主な要因は、株式会社じげん株式の譲渡による同社関連の現預金等の連結除外などによるものであります。

自己資本比率につきましては、未払法人税の減少や、有利子負債の返済等により負債が105,450千円減少したことにより、69.0%と前連結会計年度末から5.2ポイント増加いたしました。

中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

第10期中間
2010年4月1日～2010年9月30日

科目	
営業活動によるキャッシュ・フロー	79,335
投資活動によるキャッシュ・フロー	△154,196
財務活動によるキャッシュ・フロー	△60,808
現金及び現金同等物の増減額	△135,669
現金及び現金同等物の期首残高	624,831
現金及び現金同等物の四半期末残高	489,162

さらなる成長のための取り組み

事業の選択と集中

以下の3つの領域に事業を集中してまいります。

1. ソーシャルゲーム

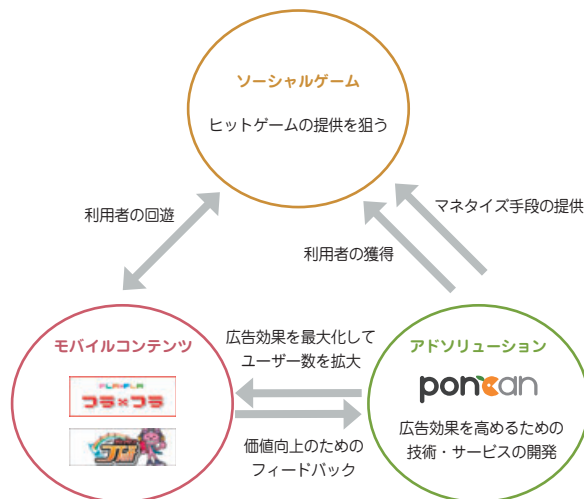
国内 SNS および世界最大の SNS である Facebook に向けてソーシャルゲームの提供を行ってまいります。

2. モバイルコンテンツ

既存コンテンツを強化し、広告出稿とソーシャルゲームとの連携で会員数を増やしてまいります。

3. アドソリューション

ソーシャルゲーム向けの広告素材の開発と提供を進め、自社での活用と、他社へ向けた提供を行ってまいります。



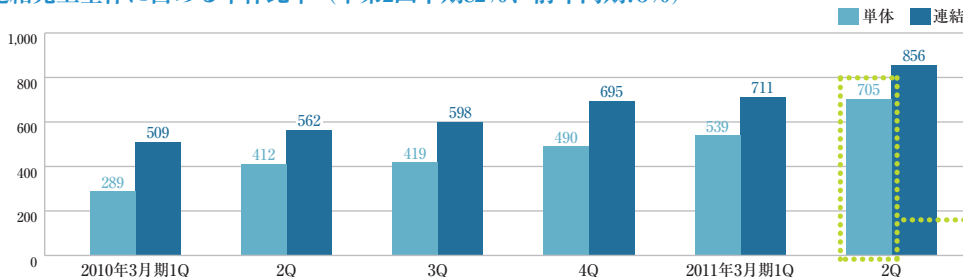
子会社の譲渡

ドリコムでは、9月15日ならびに9月22日に適時開示いたしましたとおり、子会社2社を譲渡いたしました。

経緯として上記3領域へと事業の選択と集中を行う過程で、子会社に対し事業の譲り受けの申入れがあり、当社の成長を鑑みた結果、経営資源を一段と集中することが競争力に繋がるものと判断し、譲渡に至っております。

連結売上全体に占める単体比率（本第2四半期82%、前年同期73%）

※単位：百万円（百万円未満は切捨て）



単体売上は
QonQで+31%の成長

株主メモ

2011 Interim Business Report

株式情報・会社概要

株式の状況 (2010年9月30日現在)

発行可能株式総数	43,520株
発行済株式の総数	26,988株
株主数	1,663名

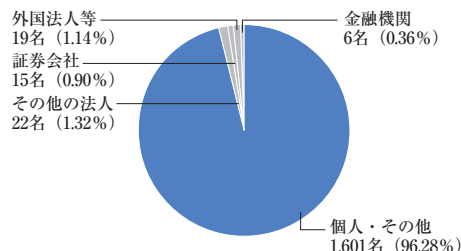
大株主 (上位10名) (2010年9月30日現在)

株主名	当社への出資状況	
	持株数(株)	出資比率(%)
内藤裕紀	11,060	40.98
楽天株式会社	5,350	19.82
廣瀬敏正	1,108	4.11
井上陽平	992	3.68
小上勝造	920	3.41
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(投信口)	682	2.53
パークレイズ キャピタル セキュリティーズ ロンドン エーシー ケイマン クライアーツ	540	2.00
安藤正樹	383	1.42
野村信託銀行株式会社(投信口)	250	0.93
小柳 滋	190	0.70

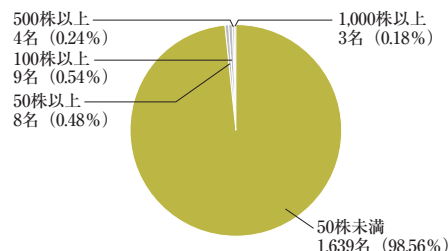
会社概要 (2010年9月30日現在)

商号	株式会社ドリコム
本社所在地	〒169-0075 東京都新宿区高田馬場1丁目31番18号 高田馬場センタービル
設立	2001年11月13日
資本金	1,045百万円
代表取締役社長	内藤裕紀
従業員数	連結146名 単体 96名
主な事業内容	<ul style="list-style-type: none"> モバイル/PC向けのエンタメコンテンツの企画・提供 マーケティングソリューションの開発・提供

◆所有者別株主分布状況



◆所有数別株主分布状況



役員 (2010年9月30日現在)

代表取締役社長	内藤 裕紀
取締役副社長	内管 川島
取締役	藤原 村田
取締役	島南 杉本
監査役	青木 理
監査役	廣瀬 敏
執行役員	谷 敬一
執行役員	藤 充英
執行役員	紀 祐夫
執行役員	三 志恵
執行役員	正 起章
執行役員	紀 章

(注) 1. 取締役島田亨氏は、社外取締役であります。
2. 監査役南敬三氏、監査役杉本一志氏、監査役青木理恵氏は、社外監査役であります。

連結子会社 (2010年10月1日現在)

・株式会社ドリコムテック

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月開催
基準日	定時株主総会 毎年3月31日 期末配当金 毎年3月31日 中間配当金 毎年9月30日 そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日

【株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について】

証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出およびご照会は、口座のある証券会社宛にお願いいたします。証券会社に口座を開設されていない株主様は、下記の電話照会先にご連絡下さい。

株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関	大阪府中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人事務取扱場所 (郵便物送付先)	東京都中央区八重洲二丁目3番1号 住友信託銀行株式会社 証券代行部 〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10 住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	☎ 0120-176-417
(インターネットホームページURL)	http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html

【特別口座について】

株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていなかった株主様には、株主名簿管理人である上記の住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といえます。)を開設いたしました。特別口座についてのご照会および住所変更等のお届出は、上記の電話照会先をお願いいたします。

公告の方法	当社のホームページに掲載する。 http://www.drecom.co.jp/ir/kessan/
上場証券取引所	東証マザーズ

ホームページ/IR情報のご案内

当社に関する最新動向や情報をお伝えしております。



<http://www.drecom.co.jp/>

株主さま向け
アンケート

株主の皆さまの声を お聞かせ下さい

当社では、株主の皆さまの声を聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。お手数ではございますが、アンケートへのご協力をお願いいたします。

下記URLにアクセスいただき、
アクセスコード入力後に表示される
アンケートサイトにてご回答下さい。
所要時間は5分程度です。

 <http://www.e-kabunushi.com>
アクセスコード 3793

いいかぶ

検索

Yahoo!, MSN, exciteのサイト内にある検索窓に、いいかぶと4文字入れて検索して下さい。



空メールによりURL自動返信

kabu@wjm.jpへ空メールを送信して下さい。(タイトル、本文は無記入)アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。



携帯電話からもアクセスできます

QRコード読み取り機能のついた携帯電話をお使いの方は、右のQRコードからもアクセスできます。



●アンケート実施期間は、本書がお手元
到着してから約2ヶ月間です。

ご回答いただいた方の中から
抽選で簿籍(図書カード500円)
を差しさせていただきます



※本アンケートは、株式会社エーツメディアの提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。(株式会社エーツメディアについての詳細 <http://www.a2media.co.jp>) ※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます。事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

●アンケートのお問い合わせ TEL:03-5777-3900(平日 10:00~17:30)
「e-株主リサーチ事務局」 MAIL:info@e-kabunushi.com